

はじめに

この報告書は日本学術振興会から「重慶市の経済発展に関する総合的研究」という研究課題で平成 10、11、12 年度の 3 年間にわたり科学研究費補助金の援助を受けて行った研究の成果報告である。

われわれの研究グループが共通にもっていた問題意識は次のようである。

中国内陸都市重慶は 1997 年 3 月に中国で四番目の直轄市に昇格した。この昇格に合わせて周辺地域が市に算入され面積 8 万 2400 平方キロ、人口 3000 万人以上という世界一の大都会となった。しかし経済成長が目覚ましい沿海諸都市に比べ、重慶市には経済発展のための課題が山積しているのが実状である。たとえば三線建設として多くの国有軍需工場があったが、それらの民需産業への転換。多くの国有大企業。市内における都市部と農村部の所得格差。そして直轄市昇格の理由のひとつであった三峡ダム建設による 100 万人以上の水没地区農民の移住などなど。一方、ある程度「離陸」したと考えられる沿海地域に対してまだまだ途上にある内陸部の発展を目指す「西部大開発」の拠点都市としてこれから中国の経済発展の中核都市となるであろうことが期待されている。この研究では経済開発を広くとらえ、狭い意味での経済開発だけでなく社会保障・住宅・衛生・教育などの社会開発も含めて今後の重慶市の経済発展戦略を考える点に特徴がある。当初の計画では長江という自然の恵みをいかした物流についても検討する予定であったが、共同研究パートナーの制約のため物流の検討については見送らざるをえなかった。

この報告書は次の三つの論点から構成されている。

第一は重慶における産業振興である。重慶は伝統的に重化学工業都市であった。特に軍需産業では優れた技術も持っていた。それらの軍需工場が民間産業に転換するにあたり、二輪車（オートバイ）産業へ進出する企業が多かった。四輪と同様に二輪車も多く多くの部品からなる組み立て産業である。そこで二輪の部品を製造するサポーティング企業の育成、組み立ておよび部品企業間の安定的な取引関係の確立が一層の発展のために重要である。そこで二輪車産業を中心として重慶の機械産業の現状と課題を分析したのが、第 1 章から第 8 章までである。第二は重慶の農村部における労働の問題である。農村部においては過剰労働力、およびその就労先の確保がきわめて重要な問題である。第 9 章から第 11 章までで、重慶市の農村部の現状とその就労先に関する調査結果を示している。第三はいわゆる「社会開発」面の分析である。重慶は多くの重化学工業の工場をもつが、地形が盆地であることもあって大気汚染などの環境問題は深刻でありすみやかな解決が望まれている。第 12 章ではこの環境問題について論じている。国有企業改革は中国全体の課題であるが、特に重慶では大型国有企業が多くあるため、その改革およびそれにとまなう失業の発生は大きな問題である。第 13 章では国有企業の失業問題について論じている。

研究会開催一覧

第1回

日時 平成10年7月13日（月）

場所 神戸大学

テーマ 研究の進め方について

報告者 西澤信善

第2回

日時 平成10年8月27日（木）

場所 大阪経済大学

テーマ 重慶市への訪問調査について：調査項目の検討

報告者 西澤信善

第3回（重慶社会科学院の訪日調査団を迎えての研究会）

日時 平成10年10月5日

場所 大阪ガーデンパレスホテル

テーマ 関西経済の概略

報告者 池田 潔

テーマ 日本の中小企業

報告者 碓井良明（中小企業国際センター専務理事、研究協力者）

第4回

日時 平成10年12月15日（火）

場所 大阪経済大学

テーマ 重慶市の最近の経済事情」

報告者 田中英夫

第5回

日時 平成11年度6月7日(月)
場所 大阪経済大学
テーマ 本年度の調査研究の進め方について
報告者 松岡憲司

第6回 (重慶社会科学院訪日団を交えて研究会)

日時 平成11年度8月4日(水)
場所 龍谷大学
報告者およびテーマ
池田 潔 「金型産業の現状と課題」
松岡憲司 「日本のオートバイ産業」
廖元和 「重慶の揚子江流域開発中の戦略でできる役割および経済発展の青写真」

第6回

日時 平成11年9月18日
場所 大阪経済大学
テーマ 今年度、および来年度の重慶現地調査に関する打合わせ
報告者 松岡憲司

第7回

日時 平成11年11月20日
場所 関西大学
テーマ 中国内陸農村の経済構造と労働力移動の実態について
一重慶市郊外農村と遠距離農村の事例研究に基づいて一
報告者 石田浩

第8回

日時 平成12年3月10日
場所 大阪ガーデンパレスホテル
テーマ 重慶二輪産業の現状
報告者 池田潔、田中英夫、松岡憲司

第9回

日時 平成 12 年 7 月 26 日
場所 大阪経済大学
テーマ 「重慶市オートバイ産業の現状と展望」
報告者 池田潔

第 10 回

日時 平成 12 年 12 月 12 日
場所 大阪経済大学
テーマ 重慶の二輪車部品製造業の実態
報告者 池田潔、田中英夫、松岡憲司
テーマ 重慶郊外の農村調査
報告者 石田浩

第 11 回 3 年度の集約として公開シンポジウムを開催（参加者 22 名）

日時 平成 13 年 3 月 1 日
場所 関西大学 100 周年記念セミナーハウス高岳館
テーマ：「中国内陸の経済発展－重慶の場合－」
プログラム
セッション 1 重慶の中小企業育成 座長 山本恒人（大阪経済大学教授）
報告者：田豊倫（重慶社会科学院院長補佐）
「重慶市中小企業の現状と振興政策」
予定討論者 松岡憲司（龍谷大学教授）
池田潔（北九州大学助教授）
「重慶市私営オートバイメーカーの競争力」
予定討論者 大田原 準（京都大学大学院）
セッション 2 重慶の農村開発 座長 藤本昭（姫路獨協大学教授）
報告者：廖元和（重慶社会科学院副院長）
「重慶点江地区農業扶貧開発戦略研究」
予定討論者 加藤弘之（神戸大学大学院教授）
石田浩（関西大学経済学部教授）
「中国内陸農村の経済構造と労働力移動」
予定討論者 小島泰雄（神戸市外国語大学助教授）
結語 藤本昭（姫路獨協大学教授）

研究成果

(論文)

西澤信善、カク躍英（田中英夫）「重慶市の最近の経済事情」

『日中経協ジャーナル』第 62 号、1999 年。

藤本昭 「中国経済の「大調整」ー建国 50 周年を迎えてー」

『中国経済』

石田浩 「中国内陸部農村の実態と開発戦略ー四川省成都市郊外農村の調査を通じてー」

『中国研究月報』第 53 巻第 2 号 1999 年 2 月。

藤本昭「中国経済の“大調整”」

『経済情報学論集』第 13 号 1999 年。

山本恒人 「国有企業改革と再就職プロジェクト」

日中経済協会編『デフレ状況下の中国経済』2000 年所収。

池田潔 「重慶市オートバイ産業の現状と展望」

『日中経協ジャーナル』No. 79、2000 年 7 月号

松岡憲司・池田潔・カク躍英「重慶のオートバイ産業」『龍谷大学経済学論集』第 40 巻、第 3、4 号、2001 年 3 月。

(2) 口頭発表

池田潔 「オートバイ産業における私営企業の競争力ー宗申のケースから」日中経済協会 2001 年 1 月 17 日

松岡憲司「重慶のオートバイ産業」、自動車問題研究会、2001 年 3 月 28 日。

(3) 出版物

山本恒人 『現在中国の労働経済 1949～2000—「合理的低賃金制」から現代労働市場へー』 2000 年創土社。